

第 7 号

平成20年 8月12日

発行

朝日庄内森林環境保全
ふれあいセンター

鳥原山から望む大小朝日岳



朝日山地森林生態系保護地域

管理委員会



森林生態系保護地域の管理は、地元住民、自然保護団体、山岳会、漁協、溪流釣り協議会、自治体等をメンバーとした常設の「管理委員会」を設置し、地域住民参加型の保全管理を実践しています。

本年度は6月25日（水）に山形市の山形県建設会館で開催し、モニタリング調査やボランティア巡視活動、スノーモービル乗り入れ問題などについて論議されました。

モニタリング調査は、山菜の採取、溪流釣りの人為の影響を評価するため、平成15年度から実施しており、昨年度5ヵ年分の結果が集約されています。今年度から第2期に入り、引き続き継続していくこととしていますが、委員会の意見を踏まえ調査項目や調査箇所についてさらに検討を加えることとしました。

スノーモービル問題では、「森林生態系保護地域への乗り入れは、設定目的を損なうおそれがある。」との見解を再確認しました。

スノーモービル実態調査

シーズンも終わりとなる5月6日（火）月山スキー場入口からプス沼・大峠・山毛檜台を経て生態系保護地域に至る乗り入れコースを徒歩により巡視し、実態を調査しました。その結果、森林生態系保護地域への乗入れは確認できなかったものの、地域境の稜線まで乗入れたトラックベルト跡が確認されました。また、乗入れ跡には多数の樹木の損傷が認められ、この結果は管理委員会に報告されました。



樹木の損傷



トラックベルト跡

巡視員会議

広大な森林生態系保護地域を適切に保全管理するために、国有林職員による巡視に加え、登山者、共用林組合、釣り人等の関係団体の協力を得て、ボランティアによる巡視活動が行われています。

夏山シーズンの開始に当たり、6月29日（日）に巡視員会議を開催し、新たなメンバーに委嘱状を交付するとともに、今年度の活動方針などについて意見交換を行いました。

合同パトロール 山岳・溪流3コースに25名参加

国有林職員と巡視員との合同パトロールを、7月下旬に3コースで実施しました。各コースとも入山者へのマナー指導とゴミの回収を行いながら、保全管理に係わる事項について点検を行いました。結果は秋季に行われる巡視員会議に報告し、今後の保全管理に反映させていくこととしています。

白滝～大朝日岳	7月26～27日	5名
泡滝～大鳥池	7月26日	16名
朝日川(黒俣沢・朝日俣沢)	7月27日	4名



朝日川コース



白滝～大朝日岳コース



泡滝～大鳥池コース

朝日自然塾

朝日自然塾は、朝日山地森林生態系保護地域に関わる自然保護団体をはじめとする関係十二の団体や機関でつくる協議会が企画運営しています。

新緑の白布平ブナ林で森と遊ぼう

本年度第一回朝日自然塾は5月24日(土)、小国町白布平で開催されました。今回は、「小国の自然を守る会」「山形県猟友会小国支部」のメンバーが講師を務め、参加者の募集にあたっては地域の子育て支援ボランティアグループ「トライアングル」とタイアップして、地元の小学生親子17人の参加を得て実施されました。

今回のプログラムは、吊り橋体験、動物たちの目覚め(足跡や糞で動物を見分ける)、森のふしぎ(木の葉や実で万華鏡を楽しむ)、ムササビの巣穴観察、マタギの話、山のルールとマナーと盛りだくさんのメニューで新緑の白布平ブナ林の散策を行いました。

吊り橋体験ではほとんどが初めてということで、最初はおっかなびっくりでしたが、すぐに慣れて二本目の吊り橋はすいすい渡り、一番印象に残った体験でした。



吊り橋を渡るとうっそうとしたブナ林が広がり、所々で講師の先生から、対岸の峰筋にある針葉樹とブナ等木々の住み分けや、珍しい木や草花を教えてくださいながら、ムササビの巣穴を発見。残念ながらムササビ一家は出かけて留守でしたが、珍しい発見に興味津々。



お昼は、スタッフが焼いたイワナの塩焼きをほおばりながら楽しい一日を過ごしました。



「地元になんすばらしい森があるとは知らなかった。家族でまた来たい」等の感想が寄せられ終了しました。

伝説の大鳥池を訪ねて

6月27日(金)朝日小学校5・6年生65名と、先生・保護者合せて78名の参加で朝日自然塾3『伝説の大鳥池を訪ねて』が開催されました。心配された天気も回復し全員元気に大鳥池登山を楽しみました。オオルリやアカショウビンなど鳥の声を聞き、ブナ林の話や綺麗に咲く花々を見ながら、ムササビの巣穴や蛇の棲み家も発見!吊り橋でスリルを味わいながら、森の中ではキノコ(ヒラタケ)をゲット、早速お昼にキノコ汁を味わう班もありました。七曲がりの急登では、友達をかばいながら登る子供たちの姿に、スタッフも疲れを忘れてホットする場面もありました。



ミヤマカサバコ

七曲がりの急登も余裕のVサインで元気に通過。途中にある大鳥清水が美味しかった!



コースの所々で、樹や花、菌に接し動物の話を聞きました。ムササビの巣穴も発見しました。ウルシ、ツタウルシ、トリカブト等危険な植物や、ヤマカガシ、ハチ等危険な生き物についても学びました。



朝日自然塾第3回プログラムは、6月26~27日行われた鶴岡市立朝日小学校5・6年生の大鳥交流体験学習として、「大鳥自然の家」と共催で行われました。

大鳥池は児童も保護者もほとんどが初めてということで「地元にいながら初めて来た、夏休みに家族でまた訪れてみたい」等の感想を頂きました。

今回は、出羽三山の自然を守る会、山形県猟友会、鶴岡市朝日庁舎の方々に引率者(班長)としてご協力を頂きました。



緑の回廊

第2回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊(土湯の森)自然再生実施協議会

～平成20年度「土湯の森」づくり事業計画を決定～

緑の回廊では、針葉樹人工林から針広混交林に誘導する森林施業やスキー場跡地の植生復元などを実施することとしており、スキー場跡地の自然再生については地域住民や自然保護団体などと協力・連携して進めるために協議会が組織され実施計画が策定されています。植生回復の取り組み初年度にあたる昨年度は、刈り払いや植生モニタリング調査のほか、今年度植栽する稚樹の採取を行ないました。

本年度の自然再生実施協議会は5月1日(木)に戸沢村役場において開催され、平成20年度「土湯の森」づくりについて承認されました。二年目となる今年度は、「みどり環境交付金事業」として昨年採取したブナ等の稚樹の植栽をはじめ、刈り払いなど昨年度実施した取組を継続して行うこととなりました。



「山取苗の植え付け」と自然観察を実施

6月14日(土)、最上川スキー場跡地で「山取苗の植え付けと自然観察」を行いました。ブナやイタヤカエデなどの300本の苗は昨年、古口小学校の5年生が中心となって山取してくれたものです。当日は、先輩から受け継いだ苗を今年5年生となった児童と保護者や地元住民、神室山系の自然を守る会など55名により、スキー場跡地でもっとも植生の回復が遅れている箇所へ「大きく育て」と願いを込めて植え付けをしました。

植え付け後は、「木っけん」と銘打ち、輪切りした円盤上でジャンケンをするネイチャーゲームで体を動かして楽しんだ後、空飛ぶタネの模型づくりを行いました。子供たちは、タネの模型を飛ばしながら、形で飛び方に違いができることに興味を持ってくれたようです。また、上昇気流に乗っていつまでも下りてこないタネの模型を追いかける姿がとても印象的でした。野鳥観察では、ホオジロやウグイスなど野鳥のさえずりが聞こえる中、設置した望遠鏡に興味津々の子供もいて、ずっと望遠鏡から離れず覗いている姿も見られました。

参加してくれた子供たちには、普段と違う遊びを楽しんでもらえたようです。昼食は、角川のお母さんたち手作りの森の恵みを使った角川弁当をみんなでおいしくいただきました。



参加者の皆さん



山取苗の植栽



刈り払い中！



天然スギの前で「セイ、チーズ」

「刈り払い」と幻想の森散策を実施

8月1日(金)、最上川スキー場跡地での刈り払いと幻想の森散策を行いました。この作業は、自生したカエデ類などの稚幼樹の保育や更新補助を目的として、昨年度から実施しているものです。

当日は、アジアやアフリカの農村のリーダーとして活躍が期待されるアジア学院の留学生と地域住民の協働で行うこととなりました。留学生は、インドやフィリピンなど8カ国からきた男女14名で、有機農業や林業について研修するため、戸沢村に訪れていたものです。

刈り払いは、残す樹木や作業方法を説明してから行いましたが、留学生にとって初めて見る木が多かったことや下刈鎌での慣れない作業に苦戦している姿が見られました。

カメルーン出身のサムソンさんは「日本は工業の進んだ国という印象を持っていたが、農業や森林の管理にもきちんと携わっていて、とても感銘を受けた」と話していました。作業終了後は、幻想の森を散策しながら日本特産のスギやユキツバキなどを観察しました。特に幻想の森に自生する天然スギは、通常のスギと違った珍しい形状をしたものが多いことから、留学生の関心を集めていたようです。

庄内海岸

クロマツ探検隊



西荒瀬保育園は、平成20年度山形県みどり環境公募事業の認定を受け、保育園児の森林環境教育を展開しており、当センターがその指導に当たっています。

4月17日(木)に年長組がクロマツ林の探検を行いました。曇りでしたが暖かく、38名の園児達は探検箇所まで約15分を、道端に咲いている草花を見ながら楽しそうに歩きました。

探検場所では、最初にカラスの死骸を発見しました。他の動物に食べられた跡を驚いて見ていましたが、野生動物は強いものが弱いものを餌にして生きていることを説明すると、園児達も真剣に聞いていました。

周りの樹木の花や芽、サギの巣などを観察し、好奇心一杯に学んでいました。

後半はクロマツ林内で色々な種が飛びくみを体験したり竹笛を鳴らしたりして楽しくすごしました。

チョッキン草刈隊



6月3日(火) 酒田市の宮海国有林で、西荒瀬保育園の年長組38名と保護者33名が、平成19年に植栽したクロマツの下刈作業を行いました。作業指導として、当センター職員、保育園職員、山形県職員、酒田市職員が加わり、総勢85名の参加となりました。

紙芝居で保育園児に森林整備(下刈り作業)の必要性を説明してから、ハサミを使った刈り作業を実演し、怪我をしないように注意を喚起しました。草の中に埋もれて見えなかったクロマツが現れると、保育園児達は声を上げて喜んでいました。保護者からは、森林を育てる大切さや大変さを体験できたと好評を博しました。作業後はクロマツ林で親子でネイチャーゲームを楽しみました。

光ヶ丘松林整備ボランティアを指導

6月28日(土)、光ヶ丘松林森林整備ボランティアに協賛団体として参加し、市民ボランティアに森林整備活動を指導しました。当日は梅雨時には珍しい晴天に恵まれ、約150人が集結しました。

当センターは、第二会場で約30人の市民ボランティアに対し刈払い作業による森林整備の指導を行いました。常連の参加者も居たため、作業は順調に進み、薄暗かったクロマツ林は約1時間で木漏れ日が差す程に整備されました。参加した人達も、自分たちの作業の結果に満足した様子でした。全員が真剣に取り組んだことから、災害もなく無事に終了することができました。参加された皆様本当にお疲れ様でした。



よろしくお願いします

ご挨拶が遅れましたが4月から2名の顔ぶれが変わっています。前任者同様ご指導の程よろしくお願いいたします。



山口指導官

青山所長

編集後記

前号から大分間をおいての発行となってしまった関係で、各事業の最近の動向をダイジェスト風にまとめました。今後は当初目標どおり年4回程度の発行を目指したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

発行

東北森林管理局
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合3

TEL: 0235-58-1730 FAX: 0235-58-1731

E-mail: t_syounai_f@rinya.maff.go.jp

Home Page: <http://www.fureai-kokuyurin.jp/>